

- ホンダ、「N-WGN」「N-WGNカスタム」のエアバッグに不具合があるとしてリコール 19年7月4日～20年2月13日に生産した8618台
助手席側エアバッグモジュールにて、エアバッグの縫製が不適切な為、縫製部の強度が不十分なものがある。その為、衝突時にエアバッグが作動した際に縫製部が裂けて正常に展開せず、乗員保護性能が低下する恐れがある。
- ホンダ、「ステップワゴン」「フィット」「ヴェゼル」「シビック」の後部座席シートベルトに不具合があるとしてリコール
後部座席ベルトにて、組付設備の調整が不適切な為、ベルトリトラクタロックの機構部のスプリングが屈曲して組付けられたものがある。その為、スプリングが構成部品と干渉し、シートベルトが素早く引き出された際にロックしない恐れがある。 19年8月22日～同年9月13日に生産した8390台
- スズキ、「ワゴンR」「アルト」「MRワゴン」「スペーシア」「ハスラー」・日産OEM「モコ」・マツダOEM「キャロル」「フレア」「フレアワゴン」「フレアクロスオーバー」のエンジンに不具合があるとしてリコール 12年8月21日～16年2月3日に生産した96万9800台
エネチャージ仕様車のクランクプーリボルトに、ねじ谷底の形状が不適切な為、耐久性が不足しているものがあることが判明。その為、締付け軸力が低い場合にクランクプーリボルトが折損してガタが生じ、クランクシャフト位相角度を正しく検出できず、適切なエンジン制御ができなくなり、エンストに至る恐れがある。
- スズキ、「ワゴンR」「アルトラパン」「MRワゴン」「スペーシア」・日産OEM「モコ」・マツダOEM「フレア」「フレアワゴン」のフロントサスペンションに不具合があるとしてリコール 13年3月28日～15年12月25日に生産した61万0496台
コイルスプリングの鋼材に対する塗料の密着性が不足している為、砂や小石を噛み込んだ場合に、塗膜が剥がれやすく、腐食が早期に進行するものがあることが判明。その為、そのまま使用を続けると、コイルスプリングが折損し、最悪の場合、タイヤと接触することでパンクして走行不能となる恐れがある。
- グループPSAジャパン、シトロエン「C3」のテールゲートに不具合があるとしてリコール 17年2月23日～同年12月23日に生産した1206台
テールゲートラバーストップの防水性評価が不十分な為、取付部からテールランプ内に水が浸入することがある。その為、電気回路がショートして、ウインカーやバックランプが点灯しなくなる恐れがある。
- トヨタ自動車、「プリウス」「プリウスα」「オーリス」・ダイハツOEM「メビウス」のハイブリッドシステムに不具合があるとしてリコール
ハイブリッドシステムのパワーマネジメントコントロールコンピュータまたはハイブリッドビークルコントロールコンピュータの異常判定時の制御プログラムが不適切な為、極低速から急加速するような高負荷走行時等に昇圧回路の素子が損傷した場合、フェールセーフモードに移行できないことがある。その為、警告灯が点灯し、ハイブリッドシステムが停止して、走行不能となる恐れがある。 14年2月4日～20年2月5日に生産した25万0284台
- トヨタ自動車、「クラウン」「クラウンマジェスタ」のオーディオアンプに不具合があるとして再リコール 08年1月23日～13年7月26日に生産した1万5000台
2016年4月13日にリコールを届け出していたが、その原因を「スピーカ駆動用素子に保護回路がないため」としていたが、新たに原因が判明した為、再度リコール回路構成が不適切な為、異物混入の影響を配慮できていない回路でショートが発生した場合、既存の保護回路が機能せず、基板が焼損することがある。その為、可燃性ガスが発生し、最悪の場合、火災に至る恐れがある。
- スズキ、「ワゴンR」「スペーシア」「ハスラー」・マツダOEM「フレア」「フレアワゴン」「フレアクロスオーバー」のISG（モーター機能付発電機）故障診断プログラムに不具合があるとしてリコール 14年7月31日～15年8月7日に生産した12万4502台
ISGの故障診断プログラムが不適切な為、使用過程でアース端子に酸化被膜が発生することで電気抵抗が上昇すると、ISGの電気回路の故障と判定することがある。その為、警告灯が点灯するとともにISGが発電を停止し、そのまま使用し続けると、鉛バッテリーが上がり、エンストや始動不能に至る恐れがある。
- BMWジャパン、BMW「3シリーズ」の計7車種のステアリング・タイロッドに不具合があるとしてリコール 18年11月9日～19年5月9日に生産した3755台
タイロッドの強度検討が不十分な為、耐久性が不足している。その為、外気温が高い環境下や路面から受ける振動により破断し、最悪の場合、操舵できなくなる恐れがある。
- アウディジャパン、アウディ「TT」シリーズの計4車種の燃料タンクに不具合があるとしてリコール 15年7月22日～19年9月17日に輸入した3654台
燃料タンクの製造公差の設定が不適切な為、燃料タンクと車体に取り付けられているブラケットとの隙間が狭いものがある。その為、前方への衝突時に燃料タンクが当該ブラケットと接触し、燃料タンクが破損して、最悪の場合、燃料が漏れる恐れがある。